

教科	国語	科目	現代の国語	学年	1年(普通科)	単位数	2
教材	教科書	新編 現代の国語			出版社名	数研出版	
	副教材	常用漢字クリア(尚文出版)					

学習の目標	1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けます。 2 論理的に考える力を伸ばし、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深めます。 3 言葉を通して積極的に他者や社会に関わろうとする態度を養います。
-------	--

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1学期	4月 書き手の意図をつかむ 目指す世界の地図を作る	○ 内容や論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨を把握します。	中間考查
	5月 話し言葉の技術 スピーチ	○ 目的に応じて、適切な話題を決め、情報を整理して、スピーチを行います。	
	6月 文章の展開を把握する 時間とは何か メモを取りながら聞く	○ 文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について、理解を深めます。 ○ 論理の展開を予想しながら聞き、表現の仕方を評価し、自らの考えを深めます。	
2学期	7月 対比を読み取る 水の東西 コミュニケーションと言葉 適切な書式で通知する	○ 比喩、例示、言い換えなどの修辞について理解し、用いることができるようにします。 ○ 自らの考えや事柄が的確に伝わるように、文体や表現を工夫して通知文を書きます。	期末考查
	8月 日常の中の文章 写真を文章で説明する 広告コピーを書く	○ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割を理解し、読み手に分かりやすい説明文やコピーを作成します。	中間考查
	9月 言葉の働きをとらえる 語感トレーニング	○ 実社会に必要な言葉の量を増やし、語感を磨き、語彙を豊かにします。	
	10月 書き言葉の技術 要約する	○ 文章の組み立てを理解して、適切な要約文を作成します。	
	11月 書き手の考えを比較する 科学と非科学	○ 二つの文章を比較し、それぞれの文章に表れた筆者の考え方の違いを読み取ってまとめ、プレゼンツールを使って分かりやすく発表します。	
	12月 科学的とはどういう意味か 話し方の技術		期末考查
12月 根拠を読み取る 「差」という情報	○ 主張と論拠など、情報と情報との関係について理解を深めます。		
3学期	1月 根拠を読み取る 目的に応じて情報を聞き取る	○ 話の構成に注意して情報を聞き取り、整理して自らの考えを深めます。	学年末考查
	2月 社会の中の文章 文章の構成を工夫して提案する	○ 読み手の理解が得られるよう、情報の分量や重要度を考えて、構成や展開を工夫した企画書を作成します。	
	3月 グラフをもとに話し合う	○ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め、資料をもとに話し合いを行います。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

評価の方法	定期考查の得点と授業時の活動や発言、提出課題、小テスト等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
学習へのアドバイス	1 授業は必ず予習(語句の意味調べ等)をして臨みましょう。 2 定期考查に備えて、計画的に学習に取り組みましょう。 3 校内漢字テストに積極的に取り組み、基礎学力を付けましょう。

教科	国語	科目	言語文化	学年	1年(普通科)	単位数	2
教材	教科書	新編言語文化			出版社名	東京書籍	
	副教材	ダブルマスター古典文法+漢文句型(第一学習社)					

学習の目標	1	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに言語文化に対する理解を深めます。
	2	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、自分の思いや考えを深めます。
	3	言葉がもつ価値への理解を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考査計画
1学期	4月 現代文編 1 随筆 生きる喜び	○ 筆者の体験談や引用に注意しながら本文に記された筆者の考え方や感じ方についての理解を深めます。	中間考査 期末考査
	5月 古文編 1 古文入門 古文の世界へ	○ 歴史的仮名遣いについて理解し、説話の面白さを読み取ります。	
	6月 漢文編 1 漢文入門 漢文に親しむ	○ 漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しみます。	
	7月 現代文編 2 小説1 触れ合う心	○ 会話や行動の描写に注目して、登場人物の心情の変化を読み取ります。	
2学期	8月 古文編 2 随筆 日々の思い	○ 随筆に込められた筆者の考えを、叙述を基に的確に捉えます。	中間考査 期末考査
	9月 漢文編 2 漢詩 漢詩を味わう	○ 漢詩の形式やきまりを理解し、作品に込められた筆者の心情や情景を読み取ります。	
	10月 現代文編 3 詩歌 命をうたう	○ 短歌や俳句、詩の特徴と表現効果を理解し、言葉に込められた情景や心情を読み取り、創作します。	
	11月 古文編 3 詩歌 うたの心	○ 詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取ります。	
3学期	12月 漢文編 3 論語 論語のことば	○ 孔子の学問・人間・政治に対する考え方を知り、ものの見方や考え方を豊かにします。	学年末考査
	1月 現代文編 4 小説2 葛藤する心	○ 表現に即して小説を丁寧に読み味わい、そこに展開する独自の世界を味わいます。	
	2月 漢文編 4 史話 史話に親しむ	○ 話の展開や登場人物の心情を読み取り、史話の面白さを味わいます。	
3学期	3月 古文編 4 物語 古人の生き方	○ 歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉えます。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が身に付いている。

評価の方法	定期考査の得点と授業時の活動や発言、提出課題、小テスト等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
学習へのアドバイス	1 授業は必ず予習(語句の意味調べ等)をして臨みましょう。 2 定期考査に備えて、計画的に学習に取り組みましょう。 3 校内漢字テストに積極的に取り組み、基礎学力を付けましょう。

教科	地理歴史	科目	歴史総合	学年	1年(普通科・園芸クリエイト科)	単位数	2
教材	教科書	高等学校	新歴史総合	過去との対話、つなぐ未来	出版社名	第一学習社	
	副教材	新歴史総合ノート(第一学習社)					

学習の目標	1	世界と日本を広い視野から捉え、諸資料から様々な情報を調べまとめる技能を身に付けます。
	2	近現代の歴史の変化に関わる事項や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり説明したりする力を養います。
	3	よりよい社会の実現に向け課題を主体的に解決する態度と各国の文化を尊重する姿勢を深めます。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	第1部 歴史の扉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私たちの身近な生活などが、世界の歴史と繋がっていることを理解します。 ○ 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に取り組みます。 ○ 18世紀のアジアの経済と社会を理解します。 ○ 欧米の市民革命などを基に立憲体制と国民国家の形成を理解します。 ○ アジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響に着目し多方面から考察します。 ○ 国民国家の形成の背景などに着目し、特徴や社会の変容などを考察します。 	中間 考查
	5月	第2部 近現代の世界と日本		
		第1章 近代化と私たち		
	6月	第1節 18世紀のアジアの繁栄		
第2節 工業化の進展と国民国家の建設				
7月	第3節 結びつく世界と日本の開国			
	第4節 帝国主義とアジア諸国の変容			
2 学期	8月		○ 列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解します。	中間 考查
	9月		○ 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に取り組みます。	
	10月	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち		
		第1節 第一次世界大戦と大衆社会		
	11月	第2節 経済危機と第二次世界大戦	○ 経済危機の背景や国際秩序の変化などに着目して、国際協調体制の動揺の要因について考察し、表現します。	
12月	第3節 第二次世界大戦後の世界と日本	○ 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組みます。	期末 考查	
3 学期	1月	第3章 グローバル化と私たち	<ul style="list-style-type: none"> ○ 冷戦後の世界の様子を基に、国際政治の変容を理解します。 ○ 地域紛争や冷戦が各国の政治に及ぼした影響を特徴や要因から考察します。 ○ 冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解します。 ○ 諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組みます。 	学年 末 考 査
	2月	第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭		
		第2節 世界秩序の変容と日本		
3月				

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想することができる。 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けている。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して自国の歴史に対する愛情や世界の国々の文化を尊重することの大切さを身に付けている。

評価の方法	定期考查の得点と授業時の活動や発言、課題レポート、授業ノート、単元ごとのまとめなどの提出物を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	---

学習へのアドバイス	<ol style="list-style-type: none"> 1 主体的に教科書を読むなど、授業の中で分からないことを解消させていきましょう。 2 小テストや定期考查に備えて、計画的に学習に取り組みましょう。 3 提出物は期限を守って必ず提出するようにしましょう。
-----------	---

教科	数学	科目	数学 I	学年	1年(普通科)	単位数	4
教材	教科書	新編 数学 I			出版社名	数研出版	
	副教材	パラレルノート 数学 I + A (数研出版)					

学習の目標	1 数の拡張の意義を理解するとともに、2次方程式への理解を深め、活用できるようにします。 2 関数への理解を深め、最大値・最小値を求めたり、2次不等式を解いたりできるようにします。 3 平面図形や空間図形を計量できるようにします。統計の基本的な考えを理解できるようにします。
-------	---

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1学期	4月 第1章 数と式 第1節 式の計算	○整式の加・減・乗法や因数分解ができるようにします。 ○根号を含む式の四則計算ができるようにします。	中間考查 期末考查
	5月 第2節 実数		
	6月 第3節 1次不等式	○1次方程式・不等式の解法を理解し、解を求められるようにします。 ○共通部分・和集合、補集合の定義や性質を理解できるようにします。	
	7月 第2章 集合と命題		
2学期	8月 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	○2次式の平方完成から頂点や軸を読み取り、グラフをかけるようにします。	中間考查 期末考查
	9月 第2節 2次関数の値の変化		
	10月 第3節 2次方程式と2次不等式	○2次方程式を解けるようにし、係数と解の個数の関係を利用できるようにします。 ○2次関数のグラフを利用して2次不等式の解を求められるようにします。 ○三角比の意味を理解し、直角三角形の辺や角を求められるようにします。	
	11月		
	12月 第4章 図形と計量 第1節 三角比		
3学期	1月 第2節 三角形への応用	○正弦定理や余弦定理を三角形の辺や角の計量に活用できるようにします。	学年末考查
	2月		
	3月 第5章 データの分析	○与えられたデータを整理し、傾向を把握することができるようにします。	

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数や式を目的に応じ変形する力、図形の性質や計量を論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現し、特徴を考察する力、社会の事象から設定した問題について、データに着目し、分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。

評価の方法	定期考查の得点や授業態度、活動状況・課題・小テスト・プリントやノート等の提出物などを各学期で観点別に評価します。それらの評価を用いて学年末の成績とします。
学習へのアドバイス	1 学習内容全般において、数学の基本的な知識の習得と技能の習熟を図りましょう。 2 問題解決等を通して、物事を筋道立てて考えたり、具体的な手順などを考えてみましょう。 3 指示された範囲の予習をきちんとし、問題意識をもって授業に臨みましょう。

教科	数学	科目	数学A	学年	1年(普通科)	単位数	2
教材	教科書	新編 数学A			出版社名	数研出版	
	副教材	パラレルノート 数学I+A(数研出版)					

学習の目標	1	順列・組合せや確率について理解し、事象を数学的に考察し処理できるようにします。
	2	基本的な図形の性質への理解を深め、見方を豊かにし、論理的に考察し処理できるようにします。
	3	数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察し表現できるようにします。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画		
1 学期	4月	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	○順列や組合せの総数を求める公式等を理解し、具体的事象の場合の数を求めることができるようにします。	中間 考査		
	5月					
	6月	第2節 確率	○同様に確からしいときの確率について、順列や組合せの知識を利用して求めることができるようにします。		期 末 考 査	
	7月					
2 学期	8月	第2章 図形の性質 第1節 平面図形	○三角形についての興味深い性質を理解し、辺(線分)や角に関する問題に利用できるようにします。	中 間 考 査		
	9月					
	10月					
	11月				第2節 空間図形	○直線と平面の位置関係を理解し、立体をイメージできるようにします。
	12月					
3 学期	1月	第3章 数学と人間の活動	○素因数分解を用いて、最大公約数や最小公倍数を求めることができますようにします。	学 年 末 考 査		
	2月					
	3月				○ユークリッドの互除法を用いて、最大公約数を求めることができますようにします。	
			○10進法における位取りの意味を理解し、n進法の表し方で表すことができますようにします。			

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。

評価の方法	定期考査の得点や授業態度、活動状況・課題・小テスト・プリントやノート等の提出物などを各学期で観点別に評価します。それらの評価を用いて学年末の成績とします。
学習へのアドバイス	1 学習内容全般において、数学の基本的な知識の習得と技能の習熟を図りましょう。 2 問題解決等を通して、物事を筋道立てて考えたり、具体的な手順などを考えてみましょう。 3 指示された範囲の予習をきちんとし、問題意識をもって授業に臨みましょう。

教科	理科	科目	化学基礎	学年	1年(普通科)		単位数	2
教材	教科書	新編化学基礎			出版社名	東京書籍		
	副教材	ニューサポート 新編化学基礎 (東京書籍)						

学習の目標	1 日常生活との関連を図りながら、物質とその変化について理解する。 2 観察、実験などを行い基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力を養う。 3 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-------	--

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か 2章 物質の成分と構成元素	○混合物と純物質、単体と化合物など物質の分類について学びます。 ○物質の三態について粒子の熱運動と関連させて学びます。 ○原子の構造について学びます。 ○電子配置と周期表について学びます。 ○イオンの成り立ちについて学びます。 ○化学結合について学び、形成される結晶とその性質について学びます。 ○原子量・分子量・式量とその概念について学びます。	中間考查
	5月	2編 物質の構成 1章 原子の構成と元素の周期表		
	6月	2章 化学結合		
2 学期	7月		○物質量について学び、粒子の数や体積、質量との関連について学習します。 ○物質量による濃度の表し方を学びます。 ○化学反応式の表し方と量的関係について学習します。 ○酸と塩基の定義について学びます。 ○酸・塩基の強さとその表し方を学びます。 ○中和反応と塩について学習します。 ○中和反応の量的関係を学びます。 ○中和滴定の実験を通して、その操作や滴定曲線について学びます。 ○酸化と還元の定義を理解します。 ○酸化剤・還元剤の働きと酸化数について学習します。	期末考查
	8月	3編 物質の変化 1章 物質量と化学反応式		
	9月			
	10月	2章 酸と塩基		
	11月			
3 学期	12月	3章 酸化還元反応	○酸化還元反応と金属のイオン化傾向を学びます。 ○金属のイオン化傾向と電流の流れる向きを比較し、関係性を調べます。 ○電池のしくみを理解し、実用電池の構造や用途、特徴を学びます。 ○化学基礎で学んだことが日常生活や科学技術と結びついていることを学びます。	中間考查
	1月			
	2月			
	3月	終章 化学が拓く世界		学年末考查

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	物質の構成や物質の変化に関する実験や観察を通して、物質とその変化について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本的な操作や記録などの基本的技能を身に付けている。	物質の構成や物質の変化について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し、表現しているなど、科学的に探究している。	物質の構成や物質の変化に関する事象・現象について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価の方法	定期考查の得点と実験ノートや課題等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	1 授業には予習をして臨みましょう。 2 予習で生じた疑問点を授業で解決しましょう。 3 復習や小テストで知識の定着を図りましょう。		

教科	保健体育	科目	体育	学年	1年(普通科、園芸クリエイト科)	単位数	3
教材	教科書	現代高等保健体育			出版社名	大修館書店	
	副教材	特になし					

学習の目標	1	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わいます。
	2	課題を発見し、その解決に向けて思考し判断する態度を育てます。
	3	公正、協力、責任、参画、一人一人の違いを大切にする資質や能力を育てます。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	1 体づくり運動	○ 南校体操、補強運動や集団走を正確に身に付けます。	中間 考查
	5月	2 陸上競技	○ 集団行動を通し、協力、責任、参画に対する意欲を高めます。	
	6月	3 球技Ⅰ	○ 体力を高め、自己の可能性に挑戦する楽しさを味わいます。	
	7月	4 体育理論	○ バレーボール、ソフトボール、卓球、テニスの中から選択して活動します。	
2 学期	8月	5 体づくり運動 ダンス	○ スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴を学びます。	期末 考查
	9月			
	10月	6 陸上競技	○ 運動会の集団演技の練習を行う中で、集団の中での協調性を養います。	
	11月	7 球技Ⅱ(その①)	○ 長距離走を行うことにより、体力を高め、自己の可能性に挑戦する楽しさを味わいます。	
3 学期	12月	8 体育理論	○ バスケットボール、サッカー、卓球、テニスの中から選択して活動します。	中間 考查
	1月	9 体づくり運動	○ スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴を学びます。	
	2月	10 球技Ⅱ(その②)	○ 集団行動を通して、計画的な実践、協力、責任などに対する意欲を高めます。	
	3月	11 体育理論	○ バスケットボール、サッカー、卓球、テニスの中から選択して活動します。	
3 学期			○ スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴を学びます。	期末 考查

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的、計画的な実施を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能が身に付いている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決方法を思考・判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。
評価の方法	授業態度、出席点、スキルテスト、記録、定期考查の得点等日々の学習活動について、観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	1 「鍛」を目標に体力・気力の充実を図り、たくましく生きる力を身に付けていきましょう。 2 積極的に参加し、自主的に協調性をもって行動しましょう。 3 一人一人が健康と安全に留意して臨みましょう。		

教科	保健体育	科目	保健	学年	1年(普通科、園芸クリエイト科)	単位数	1
教材	教科書	現代高等保健体育			出版社名	大修館書店	
	副教材	特になし					

学習の目標	1	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けます。
	2	課題を発見し、その解決に向けて思考し判断する態度を育てます。
	3	生涯を通じて自他の健康の保持増進を行うための資質や能力を育てます。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画			
1 学期	4月	1 単元 現代社会と健康 1 健康のとらえ方考え方と成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康課題の変化について理解します。 ○ 新たな健康観について理解します。 ○ 生活習慣病の予防と回復について理解します。 ○ がんの原因と予防について理解します。 ○ がん治療と回復について理解します。 ○ 運動習慣の重要性を理解します。 ○ 食事生活の重要性を理解します。 ○ 休養・睡眠について理解します。 ○ 喫煙の影響について理解します。 	中間 考查			
	5月	2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復					
	6月	4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康			期末 考查		
		7月				7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康 9 喫煙と健康	
						8月	10 飲酒と健康
	2 学期	9月			11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復	<ul style="list-style-type: none"> ○ 飲酒の影響について理解します。 ○ 薬物の影響について理解します。 ○ 精神疾患の特徴について理解します。 ○ 精神疾患の予防について理解します。 ○ 精神疾患からの回復について理解します。 ○ 現代の感染症について理解します。 ○ 感染症の予防について理解します。 ○ 性感染症の予防について理解します。 ○ 健康のために、正しい意思決定・行動選択が大切であることを理解します。 ○ 環境づくりの大切さを理解します。 	中間 考查
		10月			15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意思決定・行動選択		
		11月			19 健康に関する環境づくり		
		12月			2 単元 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成		
3月			3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法				
			3月	学年末 考查			

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

評価の方法	定期考查の得点に加えて、課題学習、授業態度、小テスト等日々の学習活動について、観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	---

学習へのアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 1 授業で学習した内容を積極的に日常生活に取り入れるように心掛けましょう。 2 保健や健康についての新聞やニュースに気を配り、日頃から健康について関心を持つようにしましょう。
-----------	--

教科	芸術	科目	音楽 I	学年	1年(普通科、園芸クリエイト科 選択)	単位数	2
教材	教科書	音楽 I Tutti+			出版社名	教育出版	
	副教材	特になし					

学習の目標	1 音楽の多様性について理解します。 2 音楽表現や鑑賞に必要な技能を身に付けるようにします。 3 感性を高め、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育みます。
-------	---

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月 オリエンテーション	○ 校歌について学習します。	
	5月 日本歌曲を歌おう	○ 発声や身体の使い方などの技能を身に付けます。 ○ 曲想を深く理解し、表現を工夫します。	
	6月 ドイツリートを歌おう	○ ドイツリートについて学び、歌詞の内容に合った歌い方を工夫します。	
	7月 アンサンブルを楽しもう	○ 他者との調和を意識したり、楽曲の特徴を生かしたりしながら、イメージをもって表現を創意工夫します。	
2 学期	8月 作曲しよう	○ 自分がつくったリズムを使って、曲を創作します。	
	9月 アンサンブルを楽しもう	○ 楽器の奏法を身に付けます。 ○ 自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫します。	
	10月 ”		
	11月 歌の旅に出よう	○ ドイツ語の言葉の特性や曲にふさわしい発声を意識し、イメージをもって歌唱表現を創意工夫します。	
	12月 混声合唱を美しく響かせよう	○ 表現形態の特徴を生かして歌います。	
3 学期	1月 物語と音楽との関わりに注目しよう	○ オペラやミュージカルなど総合芸術について学習します。	
	2月 世界のさまざまな音楽の魅力	○ 世界の諸民族の様々な声の音楽について学習します。	
	3月 コンサートを開こう	○ 1年間で取り上げた教材をより深く理解し、工夫してアンサンブルで表現します。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。また、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な、歌唱・器楽・創作の技能を身に付けている。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えようとしている。また、どのように表すかについて考えをもちたり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価の方法	実技テストや発表、実技評価、鑑賞力評価等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	1 豊かな感性を身に付けましょう。 2 人と協力し、工夫しながらより良い音楽をつくっていきましょう。 3 様々な音楽文化の良さを感じられるようになりましょう。		

教科	芸術	科目	美術 I	学年	1年(普通科、園芸クリエイト科 選択)	単位数	2
教材	教科書	高校生の美術 1		出版社名	日本文教出版		
	副教材	特になし					

学習の目標	1 造形的な視点について理解を深め、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表します。 2 美的体験を重ねます。 3 生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成します。
-------	--

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	オリエンテーション 絵画・鑑賞 ・植物を描く	○身近なところからモチーフを探し、観察を通して美的体験を味わいます。	
	5月		○植物の美しさや生命力を観察し表現します。	
	6月	デザイン ・色彩	○モチーフのよさや美しさを表現するための絵画技法を探究します。	
	7月	デザイン・鑑賞 ・ポスターで伝える	○色の仕組みを理解し配色理論を学びます。 ○色の三属性とPCCSについて学びます。 ○配色計画を立て効果的に表現します。 ○伝えたい内容をイラストや文字などを組み合わせるポスターで表します。	
2 学期	8月		○人権について自らのメッセージをイラストと文字で構成します。	
	9月	デザイン・鑑賞 ・生活を彩る模様	○模様が持つ機能や美しさを理解し目的に合ったデザインをします。	
	10月		○1学期に制作した絵画を基に連続する文様をデザインします。	
	11月		○版画技法でスタンプを作成します。 ○リピテーション効果を理解します。	
	12月		○日常生活で使うためのテキスタイルを、模様をプリントして制作します。	
3 学期	1月	彫刻・鑑賞 ・抽象彫刻で表す	○抽象立体について理解を深めます。 ○基本図形を組み合わせる感情を表現します。	
	2月		○感情を抽象立体で表現します。 ○油粘土の特性を理解し制作します。	
	3月	まとめ	○制作した作品をデジタル編集して、自分の作品のポートフォリオを作ります。	

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表現する技術を身に付けている。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に美術の幅広い想像活動に取り組もうとしている。

評価の方法	授業態度や提出された作品やレポートの内容等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	---

学習へのアドバイス	1 授業中の時間を大切に、目標をもって作品の制作や鑑賞に取り組みましょう。 2 日頃の生活の中でも、感性を働かせ、自分の思考を刺激し制作テーマを蓄えておきましょう。 3 他教科や社会の中には美術と関わる事が多くあります。その意識を持って学びましょう。
-----------	---

教科	芸術	科目	書道 I	学年	1年（普通科、園芸クリエイト科 選択）	単位数	2
教材	教科書	書道 I			出版社名	教育出版	
	副教材	特になし					

学習の目標	1 書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てます。 2 感性を豊かにし、書写能力を高めます。 3 表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化について理解を深めます。
-------	---

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月 零 書之美を求めて 1 書の世界へようこそ 2 書を生活に生かしてみよう	○書道の学習を始めるにあたり、その特質や学習の全体像を把握します。 ○生活の中で見られる書について、その意義や効果について学習します。	
	5月 一 漢字の書の学習 1 楷書の学習	○漢字の楷書の古典に基づく学習により、書の多様な表現の可能性にふれます。 ○臨書活動を通して、意図の基づく表現の基礎的な技能を身につけます。	
	6月 (1) さまざまな楷書 (2) 唐の四大家 (3) 北魏の書		
	7月 2 篆刻の学習 (1) 落款について	○篆刻は書道の一分野であることを理解します。	
2 学期	8月 (2) 姓名印と文字の配列 (3) 印稿の例 (4) 刻る手順	○印面に自書自刻し、自分だけの印を作って楽しみます。 ○作品に押して作品を完成させます。	
	9月 3 行書の学習	○さまざまな行書古典を鑑賞し、行書の特徴について理解します。	
	10月 (1) さまざまな行書 (2) 王羲之と顔真卿の行書 (3) 日本の行書	○臨書活動を通して、意図の基づく表現の基礎的な技能を身につけます。	
	11月 4 隸書の学習	○隸書に草書に興味や関心を持ち、今後の生活に生かす能力を身につけます。	
	12月 5 草書の学習	○多様な書体を学習することで、書について総合的な理解を深めます。	
3 学期	二 漢字仮名交じりの書の学習 1 言葉表現する	○自らの感動や思い・感慨に応じて詩文を選定します。	
	1月 2 感動や思いを表現しよう 3 漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞	○漢字と仮名の調和の方法を考えて、自らの意思に基づいて表現します。	
	2月 三 仮名の書の学習	○平仮名の筆遣いに慣れ、基本的な用筆法を習得します。	
	3月 1 仮名の世界へようこそ		
	2 蓬莱切の鑑賞と臨書 3 高野切第三種の鑑賞と臨書 4 三色紙の鑑賞と散らし書き	○代表的な古筆の鑑賞と臨書により運筆や用筆、散らし書きの基礎を学びます。	

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。【知識】 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な知識を身につけ、表している。【技能】	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書之美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動にとり組もうとしている。

評価の方法	提出作品について、臨書においては対象となる古典の特徴を表現できたか、創作においては意図した表現に近づくことができたか、学習活動への参加態度を含め、観点別に評価し、学年末の成績は、各学期の成績をもとに算出します。
学習へのアドバイス	1 自らの感性に基づき、対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。 2 自分は何を表現したいのか考え、詩文を積極的に選びましょう。 3 道具の取り扱いについて、一人一人がマナーを守り、気持ちよく使用しましょう。

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションI	学年	1年(普通科)	単位数	3
教材	教科書	All Aboard! English Communication I		出版社名	東京書籍		
	副教材	コーパス1800(東京書籍) チャート式 BIG DIPPER ビック・ディッパー 高校英語(数研出版)					

学習の目標	1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養います。 2 物語や説明文などを読んで、情報や書き手の考えなどを的確に理解する力を伸ばします。 3 簡単な英語で話したり、書いたりして、英語を用いて伝える力を伸ばします。
-------	--

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1学期	4月 Lesson 1 Breakfast around the World	○世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習します。	中間 期末 考查
	5月 Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	○オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習します。	
	6月 Lesson 3 A Train Driver in Sanriku	○被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考えます。	
	7月 Lesson 4 A Miracle Mirror	○海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習します。	
2学期	8月 Lesson 5 Learning from the Sea	○高校のユニークな部活動を通して、今好きなことと将来の夢について考えます。	中間 期末 考查
	9月 Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period	○江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考えます。	
	10月 Lesson 7 A Diary of Hope	○アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考えます。	
	11月 Lesson 8 A Door to a New Life	○ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考えます。	
	12月		
3学期	1月 Lesson 9 Fighting Plastic Pollution	○プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習します。	学年末 考查
	2月 Lesson 10 Pigs from across the Sea	○第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や現在の交流について学習します。	
	3月 Reading The Wizard of Oz	○冒険物語を読み、場面や登場人物の心情を読み取ります。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 それらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

評価の方法	定期考查の得点と、授業における各活動や課題等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は各学期の成績を基に算出します。
-------	---

学習へのアドバイス	1 予習・授業・復習のサイクルを大切にし、積極的に英語を使うことに努めましょう。 2 アクセントやイントネーションに気を付け、繰り返し発音・音読練習を行いましょう。 3 文法事項や重要表現を理解し、英語で表現する練習をしまししょう。
-----------	--

教科	外国語	科目	論理・表現 I	学年	1年(普通科)	単位数	2
教材	教科書	APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION I			出版社名	開隆堂	
	副教材	チャート式 BIG DIPPER ビック・ディッパー 高校英語(数研出版)					

学習の目標	1 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成します。 2 事実や意見などを多様な観点から考察し、読み手や目的に応じて簡潔に書く力を育成します。 3 学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめて発表する力を育成します。
-------	--

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考査計画
1学期	4月 Lesson 1 My Hero	○英語の発音と息づかい、現在と過去を表す表現を学習します。	中間考査 期末考査
	5月 Lesson 2 Weather Forecast for Tomorrow?	○音節とアクセント、未来を表す表現、予定を発表する表現を学習します。	
	6月 Lesson 3 Tips on Visiting a Japanese Temple	○音節、助動詞、登山の際に注意すべき事項をまとめて発表します。	
2学期	6月 Lesson 4 The Key to Learn Kanji	○英語のリズム、完了形、友達のこれまでの経験について紹介する表現を学習します。	中間考査 期末考査
	7月 Lesson 5 Home-Made Bread	○文中のイントネーション、受動態、好きな食べ物を発表します。	
	8月 Lesson 6 Guinness World Records	○比較①、ギネスブックに載せてもらう計画を立てて発表します。	
	9月 Lesson 7 Japanese Bentos Are Cool!	○比較②、食品ロスを減らす方法について、自分の考えを発表します。	
	10月 Lesson 8 Ready for Disasters	○動名詞、to不定詞①、台風への備えに関する広告を作成し、発表します。	
3学期	11月 Lesson 9 Useful Ads on the Internet	○to不定詞②、留学先に日本から持っていきたいおみやげを紹介します。	中間考査 期末考査
	12月 Lesson 10 Who's the Girl Walking with You?	○分詞、目撃した場面を描いた絵の状況を時系列に沿って説明します。	
	1月 Lesson 11 Going on a Factory Tour!	○関係代名詞、オリジナル製品のアイデアを発表します。	
	2月 Lesson 12 A Sightseeing Spot to Recommend	○関係副詞、外国人のお客様がいきたい観光地について紹介します。	
3学期	3月 Lesson 13 If I Were Good at Cooking	○仮定法、現在の悩みや過去の後悔についてのアドバイスを発表します。	学年末考査
	3月 Lesson 14 The Best Place for the Holiday	○接続詞、「春休みに出かける場所」を留学生に説明するつもりで発表します。	
3月	文法のまとめ	○学習した文法事項を活動を交えて復習します。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどについて理解を深めている。 外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの知識を、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、情報を整理しながら、外国語で適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手に配慮しながら主体的、自律的に外国語を用いて表現活動を行おうとしている。

評価の方法	定期考査の得点と、授業における各活動や課題等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
-------	--

学習へのアドバイス	1 予習・授業・復習のサイクルを大切に、積極的に英語を使うことに努めましょう。 2 アクセントやイントネーションに気を付け、繰り返し発音・音読練習を行いましょう。 3 文法事項や重要表現を理解し、英語で表現する練習をしまししょう。
-----------	---

教科	家庭	科目	家庭基礎	学年	1年(普通科)	単位数	2
教材	教科書	図説家庭基礎			出版社名	実教出版	
	副教材	家庭科ノート、調理実習ノート(愛媛県高等学校家庭科教育研究会)、2023生活学Navi資料+成分表(実教出版)					

学習の目標	1 家族・家庭、衣食住、消費や環境などに関して科学的な知識と技能を身に付けます。 2 家庭や地域及び社会における生活課題を設定し、生涯を見通して解決する力を養います。 3 生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養います。
-------	---

	教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1学期	4月 第1章 自分らしい生き方と家族	○ 時代とともに変化する家族・家庭について学習し、現在の家族の抱える課題などを多角的に考えます。	期末考查
	5月 第5章 食生活をつくる	○ 食品の栄養的特質や健康や環境に配慮した食生活について考え、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けます。	
	6月 ・調理実習	○ 基本的な調理技術を身に付けます。	
	7月 第4章 社会とかかわる	○ 福祉の考え方について学び、地域福祉の課題に関心を向け、解決する技能を身に付けます。	
	ホームプロジェクト	○ 生活の中の課題解決学習をします。	
2学期	8月 第2章 子どもとかかわる	○ 乳幼児期の心身の発達と生活、保育等について学び、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けます。	期末考查
	9月 ・保育実習	○ 子どもの遊びが豊かになるにはどうしたらいいか考え、交流します。	
	10月 第6章 衣生活をつくる	○ 被服材料、被服構成及び被服衛生について学び、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けます。	
	11月 ・被服製作実習	○ 基本的な被服製作技術を身に付けます。	
	12月 第3章 高齢者とかかわる	○ 生涯を通して生活を支える福祉や社会的支援について学びます。	
12月 第7章 住生活をつくる	○ 住生活の特徴、安全等に配慮した住居の機能について学び、住居の計画・管理に必要な技能を身に付けます。		
3学期	1月 第8章 経済的に自立する	○ 家計の構造や生活における経済と社会との関わり等について考えます。	学年末考查
	2月 第9章 消費行動を考える	○ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察します。	
	3月 生活設計	○ 家庭基礎の1年間の学習を生かして、自分らしい生き方を設計します。	

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

評価の方法	定期考查の得点と、実習、ノートや課題の提出状況、授業態度等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。
学習へのアドバイス	1 実習科目であるので、欠席をしないで意欲的に取り組みましょう。 2 授業中はしっかりと話を聞き、理解し、考え、自分の意見を持ちましょう。 3 学んだこと、考えたことは実生活に生かしていきましょう。

教科	情報	科目	情報 I	学年	1年(普通科)	単位数	2
教材	教科書	最新情報 I			出版社名	実教出版	
	副教材	最新情報 I 学習ノート					

学習の目標	1	コンピュータやデータの活用について理解を深め、情報社会と人との関わりについて理解を深める。
	2	問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
	3	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

		教材内容(単元)	学習計画・内容	考查計画
1 学期	4月	第1章 情報社会と私たち 1 情報社会 2 情報社会の法規と権利	○情報のモラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解します。 ○知的財産権や著作物の取扱いについて学びます。また個人情報とプライバシーについて理解し、それらを保護する方法を身に付けます。 ○メディアの特性について理解します。 ○インターネットを利用したコミュニケーションの特徴について学びます。 ○文書の作成やプレゼンテーションの手順を学びスライドを作成します。	期末考查
	5月	3 情報技術が築く新しい社会		
	6月	第2章 メディアと情報デザイン 1 メディアとコミュニケーション 2 情報デザイン		
2 学期	7月	3 情報デザインの実践	○Webページ作成の方法について理解し、Webページを作成します。 ○コンピュータの構成と動作の仕組みを学びます。 ○数値や文字をデジタル化する方法を理解します。 ○音声や画像をデジタルで表現する方法を学びます。 ○ネットワークを効率的に利用する取り決めについて学びます。 ○問題の発見の方法や、問題解決の手順について理解し、解決案の検討について学びます。 ○表計算ソフトの活用方法について学び、データ分析の手法について理解します。	期末考查
	8月	第3章 システムとデジタル化 1 情報システムの構成		
	9月	2 情報のデジタル化		
	10月	第4章 ネットワークとセキュリティ 1 情報通信ネットワーク 2 情報セキュリティ		
	11月	第5章 問題解決とその方法 1 問題解決		
3 学期	12月	2 データの活用	○モデル化の手順と方法を学びます。 ○シミュレーションの意義を理解し、問題解決にシミュレーションを活用します。 ○アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解し、プログラミング言語の種類と特徴について学びます。 ○変数や関数を使用したプログラムや、探索と整列のプログラムを作成します。	学年末考查
	1月	3 モデル化 4 シミュレーション		
	2月	第6章 アルゴリズムとプログラミング 1 プログラミングの方法		
	3月	2 プログラミングの実践		

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結びつきの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
評価の方法	定期考查の得点と学習ノート、提出物等を資料として観点ごとに評価し、学年末の成績は、各学期の成績を基に算出します。		
学習へのアドバイス	1 授業での活動や実習に精一杯取り組みましょう。 2 活動中に生じた疑問点は授業中に解決できるようにしましょう。 3 一人一台端末等も活用して実習や技能と定着を図りましょう。		